

2014年の選挙公報

2014年の町長選挙は無投票となりました。そのため、投票の重要な判断材料となる「平成26年1月の選挙公報」(町選挙管理委員会が発行)は、全戸に配布されませんでした。当時の原稿をそのまま、掲載します。

立山のちからこぶ2018



次世代に
過度な負担は残さない。

舟橋たかゆき (48歳)

あれもこれも、は…

「あの町にもあるから、うちの町にも欲しい。」と言われることがあります。はっきり言って、「あれも、これも」はできません。人口比例すれば、「立山町に1個あれば、富山市には15個必要ですね。」ということになります。公共施設等をフルセットで揃えたければ、果たして、いまの人口規模でいいのかという議論をしなければなりません。

身の丈にあった行政

平成20年のリーマンショック以来、国の経済対策予算を活用して、少ない町財政負担で、公共施設の耐震改修や改築を進めることができました。もちろん、国がいつまでも大盤振る舞いできるはずがありません。例えば、新しい施設を造る場合は古い施設を壊す。あるいは、民間に譲渡する。できれば2つを1つにするという、これまで通りスリム化を図ります。

使い道が決まっているお金

財政リスクの面で、他の市町村との違いは、面積が広いために下水道整備に多額のお金がかかることです。特に、中山間地域の下水道事業は、平成22年度に整備は終えているものの、実はこれからは元利償還金返済のピーク(35年頃まで)を迎えます。また、平坦地では整備が遅れており、今後多額の工事費用を要します。さらに、団塊の世代の皆さんが75歳を迎える37年頃から本格的な超高齢社会に突入り、医療や介護の費用が増大します。

質の高いまちへ

先人の叡智と努力により、立山黒部アルペンルートができ、これを結ぶ地鉄立山線が町の背骨となっています。農業基盤整備も進んでおります。町全体が「たてやまブランド」の大事な資源です。これに企業誘致と産業支援により、超高齢社会を乗り越えられるよう、町全体として質の高い、次世代に誇れるまちづくりを進めてまいります。

〔経歴〕利田小、雄山中、富山東高、明治大卒。

衆議院議員河野洋平秘書(8年)、町議(8年)、町長(8年)

ふな はし たてやまの勇氣(52才)
舟橋たかゆき

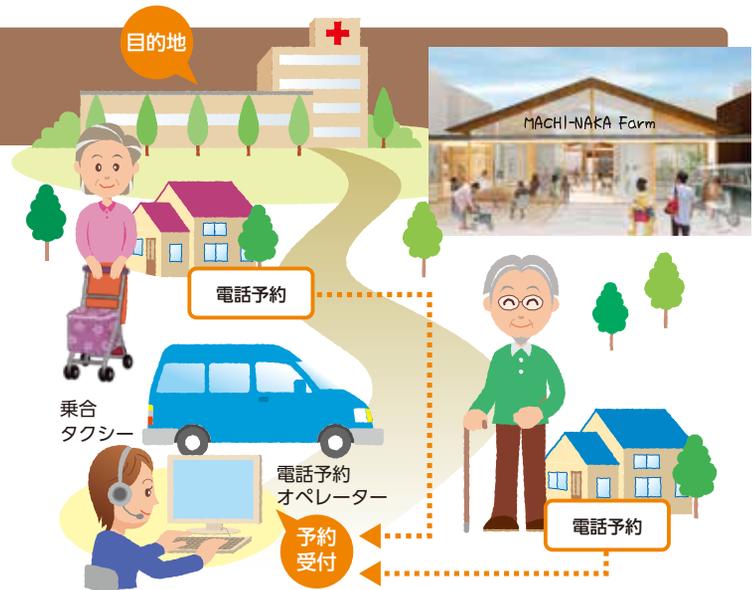
将来の漠然とした不安を、丁寧な説明と改善により、十分とは言えないまでも安心の根拠を積み重ねていきます。

高齢者等の通院・買い物 タクシー支援事業

高齢となり、運転免許を返納したいが、買い物や通院に困る。しかし、買い物代行サービスやコミュニティーバス（ここバス、おでかけワゴン）は利用者一人あたりのコスト（町負担）が高い。また、路線拡大などは民業圧迫の恐れあり。

2018年度

後期高齢者や障害者等のうち、運転免許がない方が、低料金でタクシーを通院等に利用できる券を支給する事業。2018年度は調査と事業戦略を策定します。



働きながら子育てできる環境整備

勤めているので、こども医療費の還付請求など、平日、役場に行くのが大変だ。

2018年度

こども医療費助成（通称：ピンクの紙）を富山市でも利用できるようになります。

2019年度以降

ピンクの紙そのものをなくし、ICカード（電子データ化）にします。



福祉医療費請求書（ピンクの紙）▶

通学路のカラー舗装

通学路に歩道を設置したいが、整備には用地や物件（建物）の補償に時間とお金がかかる。

2018年度以降

路側帯のカラー舗装化に重点を置き、見える安全へ。



財源
国土交通省の
交付金

◀町道上前沢線のカラー舗装



学校教育環境と基礎学力は 県内トップクラス (2006年の公約)

▲放課後学習教室

エアコンやグラウンドをはじめとする学校教育環境と基礎学力(全国学力テストで小学校は平成24年以来、毎回、県内平均点以上)は、県内トップクラスと自負しているが、近年は校舎の外壁やプールなど老朽化が目立つようになった。

これからも

- ①老朽化した小学校のリフォームを着実に進めます。
- ②子供たちが経済的に困難な家庭環境やその他の理由で不登校にならないように、小・中学校と教育センターが連携するシステムを継続します。

財源

教育等施設整備基金への積み立ての継続(2017年度は3,200万円)と文科省の交付金等

人口減対策の拡充

自然減だけで毎年200人ほど。企業立地は進んでいるが、人手不足が課題。高齢者のみの世帯が増えている。県外にいる子供たちを呼び寄せたい。

2018年度

奨学金返済応援事業(ウターン学生と高校生)

財源

企業版ふるさと納税などによる米百俵基金

2017年度から登録開始

高校や県外の大学などに進学に際し、教育資金の融資を受けた方に対し、就業後、毎年のローンの返済額の3割または8万円(高校は4万円)のうち低い額(米百俵基金協賛企業に就職した場合は4割または10万円)を支援



いざというときのために

近年、全国各地で大規模災害が起きています。避難所をはじめ、いざというときのための体制を整備します。

これまでに

- ①2015~17年度に避難所となる公立公民館の隣接地に立山町消防団の高野、大森、利田分団詰め所を整備。
- ②また、土砂災害が起こる可能性が高い、東谷地区の谷口体育館にはLED照明と太陽光発電・蓄電池を整備。

2018年度以降

他の地区においても、消防分団詰め所を公共施設に隣接させます。2次避難所となる立山中央体育センターに続き、その他の施設にもLED照明等を順次、整備します。



財源

総務省や環境省の補助金等

◀消防大森分団詰め所(2017年)

鳥獣被害対策の強化

イノシシなどが田畑を荒らし、農業どころか身の危険を感じることもあるが、電気柵だけでは、イノシシやサルに対応できなくなった。

2018年度

恒久型侵入防止柵設置を推進します。(2017年度 四谷尾800m 芦見1800m)



財源

農林水産省の交付金

◀恒久型侵入防止柵

まちの活力の原動力である 「小規模事業者」を支援

- ①立山ドンドンまつりなど、イベントの担い手は地元の小規模商工業者が中心だが、大手の事業者には押し寄せ、後継者難。しかし、除雪や漏水工事など、困ったときには近くの業者さんが頼りだ。
- ②町は、下水道整備に毎年4億円もの予算をかけているが、立山町の面積が広く、家が点在しているために、事業規模に対して、水洗化率が上がらない。



▲立山ドンドンまつり2017

2018年度

●環境保全型住宅設備普及・リフォーム促進事業

対象者をこれまでの三世同居に加え、近居（町内に住む）も補助対象に。

●立山町型「浄化槽設置整備事業」

下水道と同額（23万円）の加入分担金で町が合併浄化槽を整備。使用料金も同程度で。

財源

立山町
環境保全基金

環境省
浄化槽市町村
整備推進事業

医療・福祉を支えるための 立山町の財政力アップ

財政の硬直化の度合いを示す「経常収支比率」は91.6%（28年度決算）であり、県内5町村中、最も厳しい数字です。これは、全国の類似団体平均に比べて、職員数が33名（うち保育所関係部門で21名）が多いことと、これまでの農業集落排水事業や公共下水道の建設費の起債償還金が主な要因です。

2018年度

これからも企業誘致を推進。

2006年以降、町が誘致に関わった企業は11社。2018年度以降も3社の進出が予定。



▲株式会社モンベルの辰野勇会長様で

農業は成長産業

立山町のラベンダーなどの農林産物を原料とした化粧品など、アロマ工房やエステサロン、レストランなどの美容・健康リゾートが2019年4月オープンを目指して計画されています。このほかに6次産業化の構想もあり、引き続き、支援してまいります。もちろん、農業の担い手がいなければ、このプロジェクトは成功しません。農業用水路改修などの農業基盤の整備や6次産業化による所得の向上を図ります。



▲グリーンパーク吉峰のラベンダー畑



▲立山プロジェクト完成予想図

舟橋たかゆきプロフィール

- 経歴**
- 1965 5月17日生（52歳）
利田小、雄山中、富山東高卒
 - 1988 明治大学商学部卒。雄弁部に在籍中に、河野洋平代議士（元衆議院議長）と出会う。
 - 1989 衆議院議員 河野洋平秘書（8年間）
 - 1998 立山町議会議員当選（32歳）
 - 1999 県内の若手市町村議会議員で構成する政策勉強会『政策フォーラム34』設立、初代代表
 - 2002 立山町議会議員当選（36歳）2期目
 - 2005 『新自治体経営塾』を設立、初代代表
 - 2006 立山町長に当選（40歳）
 - 2010 立山町長に再選（44歳）2期目
 - 2014 立山町長に3選（48歳）3期目



野上浩太郎内閣官房副長官に要望@総理官邸



富山大で講義(2017年7月)

現役職

全国中山間地域振興対策協議会 会長
全国観光地所在町村協議会 副会長

その他 農事組合法人こがねのメンバーです。
家族 父・母・妻・娘2人
好きなことば 挑戦するものが成功する

舟橋たかゆき後援会

〒930-0274 富山県中新川郡立山町五郎丸161
TEL(076)462-3439 FAX(076)462-3825



E-mail takayuki-f@ma.net3-tv.net
https://www.facebook.com/takayuki.funa